



## 廃棄物を扱う静脈産業に 新たな視点でイノベーションを生み、 ユニークな新事業を創出、 地域活性化をリードする

株式会社中特ホールディングス 代表取締役

橋本 ふくみ

(山口県周南市)

### profile

橋本 ふくみ (はしもと・ふくみ)

1965年生まれ。山口県徳山市(現・周南市)出身。徳山北高等学校から神戸学院女子短期大学文芸科に進学。卒業後21歳で損害保険代理店を開業した後、父親が経営する中国特殊株式会社に入社。父親の没後、2007年に同社代表取締役役に就任。2012年に株式会社中特ホールディングスを設立、代表取締役となる。2015年に株式会社リライフ代表取締役役に就任。2016年山口県女性活躍推進知事表彰「女性のチャレンジ賞」受賞、2024年に内閣府男女共同参画局より「女性のチャレンジ賞特別部門賞『気候変動問題等の環境問題におけるチャレンジ』」を受賞。2016年から一般社団法人山口県産業廃棄物協会副会長を務めている。

文／村上 郁子 写真撮影／渡辺 久徳

### 家業を事業に発展させた 両親の奮闘を見て育つ

周南コンビナートで知られる山口県周南市。工業地帯にも程近い久米の地に、トラックの出入りが絶えない一画がある。廃棄物収集運搬業の中国特殊株式会社、株式会社吉本興業などが並ぶ道の先に立つモダンな白い建物。それが中特グループ各社を統括する株式会社中特ホールディングスの本社屋だ。植栽に囲まれたアプローチを進むと開放的な空間に迎えられる。

同社の社長、6社からなるグループのCEOを務める橋本ふくみさんは、三人兄妹の長女として徳山市(現・周南市)に生まれ、父・吉本文男氏が1965(昭和40)年に汲み取り業から始めた家業の発展を目の当たりにして育った。父の下で働く人たちと日々の食事と共にしていたという。1966(昭和41)年に父は一般廃棄物、汚水、浄化槽などを扱う徳山清掃株式会社(現・中国特殊)を、母は家庭ゴミを扱う徳山清掃センター(現・吉本興業)を設立し、それぞれ代表に

就いた。

地元の高校から神戸の短期大学の文芸科に進学した橋本さんは、当時は事業に無関心で、卒業後はツアーコンダクターを目指し、旅行会社への就職も内定していた。ところが先方の都合で入社が果たせず、保険代理店の研修を受けて21歳の時に地元で保険代理店を開業した。やがて兼業で父の会社の経理を手伝い始めると、気になることが増えてきたため、保険代理店を畳み、1987(昭和62)年に中国特殊に入社した。

### 母から後継者に指名され 半年悩んで経営者に

入社後、産業廃棄物のリサイクルを行う有限会社中特工事(現・株式会社リライフ)が設立され、またM&Aにより株式会社藤井興業がグループ会社に加わり、事業はますます拡大していった。橋本さんは、生後2カ月のわが子をかごに寝かせて子連れで出社した時期もあったという。そうした中で、1999(平成11)年に父・吉本文男社長が他界。数年後、橋本さんは母・吉本英子会長から「あなたがやりなさい」と後継者に指名された。

橋本さん。その語り口からは、長年現場で働き、会長としてグループを率い、2002(平成14)年には環境マネジメントシステムに関する国際規格であるISO14001の取得へと導いた母への敬意が伝わってくる。

とはいえ、企業経営は橋本さんにとって未知の世界。半年間悩んだ末に「私がやるしかない」と2007(平成19)年に中国特殊の代表取締役役に就任した。

### 先輩経営者を師匠と仰ぎ 意識改革で新しい社風を確立

就任後は、経営に関する本を読み漁る一方で、母の友人の先輩経営者に相談を重ねた。橋本さんの悩みは、経営の素人であることに加え「初代を超えて当然」という2代目のプレッシャーであった。

同様の経験を持つその先輩経営者からは多くの指針を与えられたといい、「間違いない私の師匠という存在です」と言い切る。特に「秘訣を知りたい」と切望したのが、いわゆる3K仕事にも社員が生き生きと取り組む社風の築き方だった。「社員が誇りを持って働く企業」が橋本さんの理想だったからだ。

2012(平成24)年にグループ各社の経理や営業、広報、マーケティングを担う中特ホールディングスを設立し、代表取締役役に就任した。先輩経営者の指針を参考に、橋本さんはまず「私たちは、生活環境革命で人々を幸せにします」という企業理念を定めた。そこには、廃棄物の収集運搬のみならず、リサイクルや環境保全にも努め、地域に貢献するという思いが込められている。まだSDGs

の概念が社会に広まる前だったが、同社はSDGsと同様の目標を設立時から目指してきた。朝礼で企業理念を唱和して社員の意識改革を進め、橋本さんは新たな社風を確立していった。

また、経営者として常にアンテナを張り、気になる話題があったら掘り下げて事業化させていった。その代表例がダチョウの飼育による食品リサイクルだ。水分が多く焼却に多大なエネルギーを要する野菜くずを回収してダチョウのエサにすることで、CO<sub>2</sub>排出抑制に貢献するとともに、その卵から新製品を開発する。このユニークな事業は関心を集め、ダチョウを飼育するプラントへの見学者が激増した。メディアへの露出も相次ぎ、「廃棄物や弊社への関心を高めてくれています」と橋本さんは語る。



- 1 中特グループのロゴとスローガン「まちと未来をキレイにする仕事。」が掲示されたパッカー車(ゴミ収集車)。一般廃棄物収集運搬は、1966年に創業した時からの事業で、時代の流れとともに下水道の維持管理、産業廃棄物の収集運搬・中間処理業、建設業などへと多角化が進んだ
- 2 下松リサイクル工場で飼育するダチョウに細かく刻んだ野菜をあげる給餌体験は産業観光ツアーでも人気のプログラム。クイズ形式で食品ロス問題を考える学びの場にもなっている
- 3 遺品整理や各種片付けを事業とする株式会社ポータルハートサービス。現場責任者は遺品整理士と整理収納アドバイザー、終活カウンセラーなどの資格を持ち、遺品整理で悩み事を抱える依頼者に対し、細やかなサービスを提供する
- 4 英語でプログラミングを学ぶスクール「ROBBO」の国内3番目の教室を周南市で運営。日本、グアム、バンガラデシュ出身の先生が在籍している。プログラミングだけでなく、電子回路や3Dモデリング、独自のロボットを使用したレッスンも展開する

写真提供／株式会社中特ホールディングス



## 教育やアートにも着目し イノベーションを生み出す

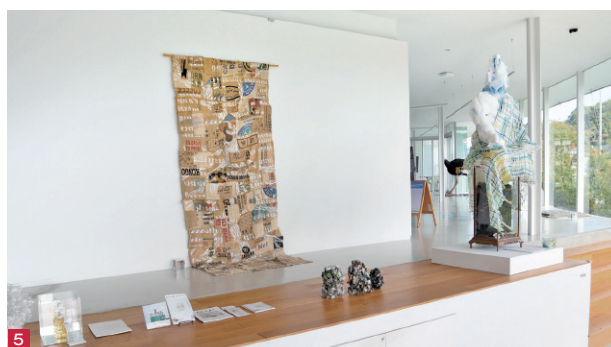
英語でプログラミングを学ぶスクールの「ROBBO」も新しい事業の一つだ。「教育の選択肢が多いことが、地方で有能な人材が育ち、地域にとどまらせることにつながる」と考えていた時に、このフィンランド発祥の教育メソッドに出会ったという。周南校は渋谷、福岡に次ぎ、国内3番目の開校となった。事業化に当たり採用した外国人スタッフは、指示を受けるとただ従うのではなく、必ず理由を尋ねる。世界を見据えたビジネスを思い描く橋本さんは「外国人スタッフの採用により、多様な視点の重

要性を改めて痛感し、価値観が劇的に変わりました」と笑顔で語る。

現在、社員の国籍はさらに多様化し、フリーアドレスの本社屋ではさまざまなコミュニケーションが交わされ、刺激を与え合っている。橋本社長自身、「社長ではなく、橋本さんと呼んでね」と社員に告げ、柔軟な組織の醸成を促している。

「この本社屋は、環境と人の関わりを創造する『COIL』\*事業の本拠地、イノベーション基地です。協賛各社様から贈られた植樹も『Reの森』として大切に育てています」

さらに、廃棄物を使ったアート公募展を全国規模で展開してきた「ACTA+」



5 “本来捨てられるはずのもの”からアートを生み出す「ACTA+」の事業では、公募展「ACTA+ART AWARD」を実施している。受賞作品をはじめとしたアート作品が新社屋COILの中で展示されている

6 2024年には大阪高島屋でACTA+のポップアップイベントを開催。壁掛けアートやオブジェ、サステナブルなインテリア用品などを販売した

7 2021年のグランプリ受賞作品「Has an aura.」(金崎展南さん作)は、不要になった電子基板や電子機器の部品で構成されたロボットのような作品

8 捨てられるコーヒー豆の麻袋を素材としたドローイング作品「Trashestry」(Yoko Ichikawaさん作)



写真提供 / 5〜7 株式会社中特ホールディングス

も事業の幅を広げている。企業や大学と連携し、2024(令和6)年からはECサイトで作品などを販売している。同年10月には経済産業省中国経済産業局の「Startup WEST」にも採択され「国からも支援をいただき、さらなるサステナブル強化に努めていきます」とますます意欲的だ。

## 多様性を歓迎し、誰もが 柔軟に働ける企業でありたい

橋本さんは2016(平成28)年に

山口県女性活躍推進知事表彰「女性のチャレンジ賞」を、2024年には内閣府男女共同参画局より「女性のチャレンジ賞特別部門賞」(気候変動問題等の環境問題におけるチャレンジ)を受賞した。

女性活躍推進の機運が高まる中、女性が真に活躍するために必要なことを問うと、「女性という縛りにとらわれず、外国人や障がい者も含め、誰に対しても働くチャンス을平等に用意することです」と明快な答え。「この人がいないと困る」という属人化から脱し、誰もが柔軟な働き方ができるよう、選択肢を増やした上で、仕事ぶりはきちんと評価する成果主義を目指している。

2018(平成30)年に設立した株式会社ポータルハートサービスは、その先駆事業といえよう。同社の提供する遺品整理や各種片付け事業は家事をこな

す女性ならではの視点が生かせることから、スタッフには女性を多く採用し、家庭や子育てと両立しやすいパート勤務を主体にしている。同社設立の際、橋本さんは、もともとパート社員として入社したシングルマザーの女性を幹部に抜てきした。

「人にも働き方にも多様性を認め、働きやすい職場にしなければ会社は発展しません。一番大事なのは人です」

地域との関係性もその延長線上にある。人口減少に伴う廃棄物減少の時代を市場の減少と捉えるのではなく、環境保全につなげ、地域の活性化をけん引する覚悟を抱く。

「幅広く展開していますが、弊社が増収・増益を保っているのは、多彩なチャレンジが社員のモチベーションを高めているからだ」と信じています」と力強く語ってくれた。

writer

村上 郁子(むらかみ いくこ)

山口県生まれ。フリーライター。大学卒業後、大学研究室勤務を経て、各種雑誌や自治体・企業の広報・情報誌、記念出版物などの取材・執筆・編集に携わる。



株式会社中特ホールディングス  
山口県周南市久米3034-1  
☎0834-25-0606  
<https://www.chutoku-g.co.jp/>